

ふじの教育
基本方針

「一緒に学ぶ 一生学ぶ」



学びを創る 未来を拓く
～ みんなが学びの主人公 ～



「見取り」を生かし、
仕掛ける

「学びの実感」
を次へつなぐ

個別最適
な学び

協働的
な学び

「子供と教材をつむぐ」
単元を構想する

【学びの、その先へ】

令和2年度から小学校を皮切りに本格実施となった学習指導要領には、「子供たちが生きていくこれからの社会が、変化が激しく、予測困難であっても、自ら課題を見付け、学び、考え、判断し行動することで、自分自身が思い描く未来を自らの手で切り拓いてほしい。」という願いが込められています。

私たちは、授業や学校生活を通して、将来の日本を支え、明るい未来を拓く子供たちを育てることが求められています。そのためにすべきこと。それは、『子供たちの資質・能力を育むため、今まで以上に日々の授業を改善すること』に他なりません。目の前の子供たちが社会で活躍している10年後、20年後に思いを馳せ、授業づくりに邁進していきましょう。

学びが新しい自分を創る

「子供と教材をつむぐ」単元を構想する

単元を構想することは、子供の思いや願いと教材の価値を教師の関わりや支援でつむいでいく地道で繊細な営みです。そして、それは教師の醍醐味でもあります。

単元を構想する際には、学習指導要領に示された育成を目指す資質・能力を十分に理解し、これまで積み重ねてきた学びの足跡や子供の実態を踏まえ、教材を様々な角度から分析していきます。その教材に出会った子供たちがどんな願いや課題を持つか、どこにつまづき、どのような困り感を持つか等、子供の思考過程を学び手の視点に立って豊かに想像することで、教師の関わりが見えてきます。教科の「見方・考え方」を意識した仕掛けや場の設定、ICT活用、資料提示などの具体的な支援がイメージできます。

子供たちが、思いや願いを実現しようとする過程で、学びを楽しみながら、資質・能力を育めるような単元を構想しましょう。

「見取り」を生かし、仕掛ける

授業者は“見取る、判断する、仕掛ける”を繰り返しながら、目標に向かって授業を展開していきます。深い見取りが、適切な判断に繋がり、深い教材研究が、仕掛けの豊かさに繋がります。

「深い見取り」とは、目の前にいる子供たちのつぶやき、記述、表情、仕草等の表れを拾い、共感的、多面的に、子供一人一人の思いや考え、学習集団全体の傾向、そこに至った背景を受け止めることです。

この見取る力が高まれば、目標に対する今の子供の姿を的確に見定め、問い返す、引き出す、繋げる、待つ、委ねる、広げる、焦点化する、整理する等、ねらいに迫る効果的な「仕掛け」をすることができます。

教師が、目の前の子供の思いをしなやかに生かしていくことで、子供たちの生き生きと学びを深めていく姿を引き出しましょう。

「学びの実感」を次へつなぐ

子供は、授業の中で様々なことを思い、考え、そして表現します。教師は、意図的に立ち止まり、見取った姿から「なるほど!」「〇〇さんの考え、いいね。」「その見方、気付かなかったよ。」など、価値付ける言葉を掛けるようにします。こうした授業における小さな関わりを意識したり、まとめ・振り返りの場を適切に設けたりすることで、子供たちは学びの手応えを掴んでいきます。手応えを掴んだ子供たちは、次の学びに向かって自ら走り出そうとします。真の学びはここから始まるのです。

知識・技能を生かし、試行錯誤しながら、課題を解決していく積み重ねによって、学びを調整する力が少しずつ身に付きます。

そして、こうした経験の蓄積が、自らの学びを肯定的に捉え、粘り強く取り組む意義や自身の伸長を感じ、新たな学びへの意欲を高めていきます。

【より質の高い研修の推進も】

授業力向上のためには、授業者一人一人が指導の重点や各校の研修課題を意識するとともに、校内研修の質をより高めていく必要があります。「子供の姿がどのように変容したか」だけで終わらず、「その変容を生み出したものは何か」等、子供の姿を基に、その思考過程を深く読み解くことを通して、教師の支援の在り方や子供を見取る技術等について、研鑽を積んでいきましょう。